虐待防止委員会の取り組み

さつき荘では、虐待防止委員会があり、話し合いは年間５回実施しています。今年度は「ていねいキャンペーン」を実施しました。他職員、関係者の見習いたい具体的事例を集めてポスターを作成し、廊下に掲示しています。

「シェアし対応」＝シェアしたい対応。シェアしたいよう。誰が考えたダジャレの題名なのか？？？

ヤラセではなく、本当に職員と実習生が出したエピソード集です。身近に仕事をしている人が、みんなの素敵な振る舞いを見て文字にしてくれたと思うと、とても嬉しいです。

社会福祉法人 村山苑　救護施設 さつき荘
〒189-0024 東京都東村山市富士見町 2-8-2
TEL 042-396-2244　FAX 042-397-4311
発行人　田島 博志

本人了承の上、写真・作品を掲載しています。

さつき荘ホームページ
http://www.murayamaen.or.jp/satsuki/

さつきだより No.67
社会福祉法人 村山苑
救護施設 さつき荘

”年始号発行にあたり”

施設長　田島博志

昨年読んだ本の中で印象に残っているのがSF作品の「プロジェクト･ヘイル･メアリー」です。ネタバレになってしまうのであらすじは伏せますが、ヘイルメアリーとは、アメリカンフットボールの試合終了直前、負けているチームが逆転を期して放つロングパスのことだそうです。「起死回生」「ダメ元」「当たって砕けろ」的な意味らしいです。

さつき荘の基本方針には「利用者の持つ可能性を追求する」という文言があります。「どうせダメだろう」「所詮無理」と最初から諦めてしまうのは簡単ですが寂しいです。「どうせ～できない」から「どうすれば～できるか」を考えることが大切で、小説の内容もそんな展開が満載でした。

この物語の主人公ライランド･グレースには口癖があり、事あるごとに「オーケイ」から話し始めます。翻訳者のクセなのかもしれませんが、「オーケイ、そういうことか」とか「オーケイ、そこまで言うなら」とか、大ピンチであっても超イヤミを言われても「オーケイ」で返すスカしたキャラのアメリカ人です。でも一旦冷静に状況を整理をしてから対応を考えるにはうってつけの言葉だと感じます。日本では想定外の苦境に見舞われたら「マジか」とか「やばい」などと言いますが、どちらもなんだかネガティブ感があり、「オーケイ」には前向きな要素が溢れています。何があっても一旦落ち着いて、上手くいく可能性を捨てずに考えることができれば行動も結果も変わってくるのではないでしょうか。

昨年は世界でも国内でも皆が平和で豊かで希望あふれる状況であったとは言い難いと思います。さつき荘でも不運な事故や大変な出来事がいくつかありました。でも、皆さん元気に穏やかに新しい年を迎えることが出来ました。利用者や職員の努力はもちろん、関係者の皆様や地域の方々の日頃の協力のおかげです。

オーケイ、そういう訳で今年もきっと良い年になるでしょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

沢山のボランティアの方々と手を取り合い、地域の皆様との繋がりで、たくさんの笑顔の花を咲かせることが出来ました。ありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。